

「現代に通じる要素残す」

中井会長タウトを語る

「雲」代表宇田川さんの朗読も

会保存会
向日別邸保
月例講演会
最終回

旧日向別邸保存会(中井正勝会長)は28日、熱海市昭和町の起雲閣で月例講演会「重要文化財・旧日向別邸を知ろう」を開催した。本年度最終回で、会員と一般約30人が集まり、熱海朗読会「雲」代表の宇田川本子さんによる「タウトの日記」などの朗読と、中井会長の講演に耳を傾けた。平成22年度は3回、講演会を催す予定。



タウトの日記などを朗読する宇田川さん



タウトについて語る中井会長



約30人が集まり、朗読と講演に耳を傾けた＝起雲閣で

月例講演会は、旧日向別邸を熱海市民にもっと知ってもらおうと昨年7月から8回にわたり開いてきた。最終回では中井会長が「ブルー・タウトの奇跡」と題して、タウトの日本での活躍を紹介。国内外から訪れた旧日向別邸の見学者から寄せられたさまざまな声を取り上げたうえで「タウトは現代にも通じる要素を残している。だからこそ旧日向別邸が重要文化財になったと思う」と語った。タウトが設計したドイツの低所得者向け集合住宅「ジードルンク」が世界遺産に登録されたことにも言及した。

講演に先立ち、宇田川さんは中井会長がタウトの生涯をまとめた「建築家ブルー・タウト」と、「タウトの日記」の熱海にかかわる記述を朗読した。昭和10(1935)年当時の熱海の様子を記録した日記に、出席者は聞き入った。

旧日向別邸は実業家の故・日向利兵衛氏の別荘の離れとして昭和11年に同市春日町に建てられた。その地下室をドイツ出身の建築家ブルー・タウトが設計した。日本

に現存する唯一のタウト設計の建築物で、重要文化財に指定されている。同保存会は、旧日向別邸の維持・保存に取り組む市民有志の会。中井会長は「日向別邸だけでなく、熱海の文化財をいろいろな形で紹介していきたい」と新年度の活動への意欲を話した。

保存会の問い合わせは事務局の矢崎さん(電050(7577)4862)へ。

熱海市の清瀬水公園レインボーデッキをメイン会場に4月17、18の両日、第8回「熱海ふれあい産業まつり」(同実行委員会主催)が開かれる。イベントアースでの地元の名産品や隠れた逸品の販売をはじめ、牛乳早飲み競

ふれあい産業まつり
4月17、18日

をははじめ、牛乳早飲み競